

ウォーカブルなまちづくりの推進について

池袋駅周辺地域では、2015年の本庁舎建設・移転を皮切りに、4つの公園を中心としたまちづくりなど、公共空間のフル活用により歩行者優先のまちづくりを進めてきました。

2015年7月には、特定都市再生緊急整備地域に指定され、本委員会の皆様ご参画のもと「池袋駅周辺地域基盤整備方針 2018」の策定など、まちづくりの方向性が共有され、都市再生特区の第一号となる東池袋一丁目地区の都市計画決定をはじめ、民間による都市再生も促されました。

今日では、公民で進めてきたまちづくりが徐々に形にあらわれ、「ウォーカブルなまち」として全国的な注目も受けるようになりました。本年の豊島区制90周年を期に、これまで進めてきた歩行者優先で回遊性の高いまちづくりを、「ウォーカブルなまちづくり」として更に推進してまいります。

1. 歩行者優先のまちづくりの経緯

【都市計画マスタープラン】

- (2000年)「豊島区都市計画マスタープラン」
⇒ 歩行者優先の交通体系の方策の検討
- (2015年)「豊島区都市づくりビジョン」(マスタープランの改訂)
⇒ 駅前広場の歩行者空間の拡大や駅から連続する歩行者優先道路の整備

【池袋駅周辺地域再生委員会による計画】

- (2016年)「池袋駅周辺地域まちづくりガイドライン」策定
- (2018年)「池袋駅周辺地域基盤整備方針 2018」策定
⇒ 駅からまちへ、駅東西への回遊の促進／駅再生の方向性
4つの公園を中心としたまちづくり／アトカルハブ・スポットなど

【交通戦略関係】

- (2011年)「池袋副都心交通戦略」
⇒ 歩行者を優先する交通環境の創出
- (2020年)「池袋副都心交通戦略 2020 更新版」
⇒ グリーン大通りの広場化／明治通りの遮断・南北ロータリー化(クルドサック)など

【交通戦略に基づく具体の計画・ルール等】

- (2018年)池袋地区駐車場整備計画の策定
- (2020年)池袋地区駐車場地域ルールの策定・運用開始
- (2020年)南北区道歩行者優先化

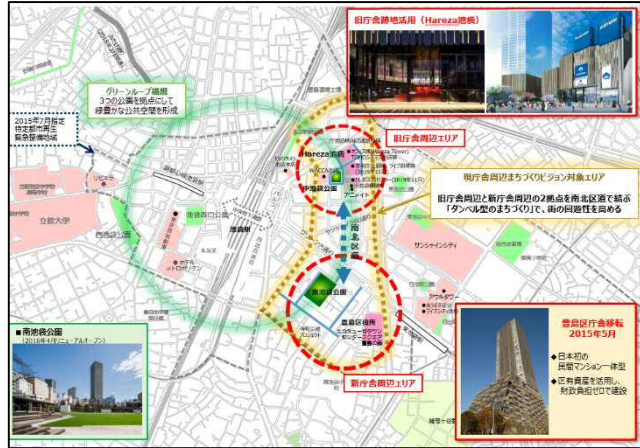
2. 「ウォーカブルなまちづくり」の取り組み方針等

これまで実施してきたまちづくりの経緯及び今後の展望等について、去る本年1月17日に、豊島区長が以下のとおり、記者会見にて発表致しました。

【Phase1（2014年）】ダンベル型のまちづくり（現庁舎周辺まちづくりビジョン）

主な事業

現庁舎建設、南池袋公園、
旧庁舎活用検討



【Phase2（2019年）】4つの公園を中心としたまちづくり

主な事業

Hareza 池袋、池袋西口公園、
イケサンパーク IKEBUS 等



【Phase3(2022年)】

東西のシンボルストリートを中心としたウォーカブルなまちづくり

～「駅袋（エキブクロ）」から脱却、人が主役のまちづくり～

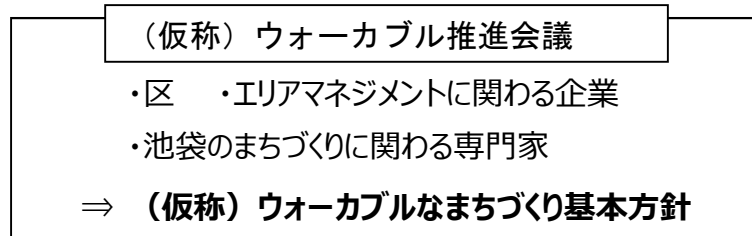
主な事業

駅再生（歩行者広場、交通広場、
サンクンガーデン、デッキ、クル
ドサック化、グリーン大通り広
場化)



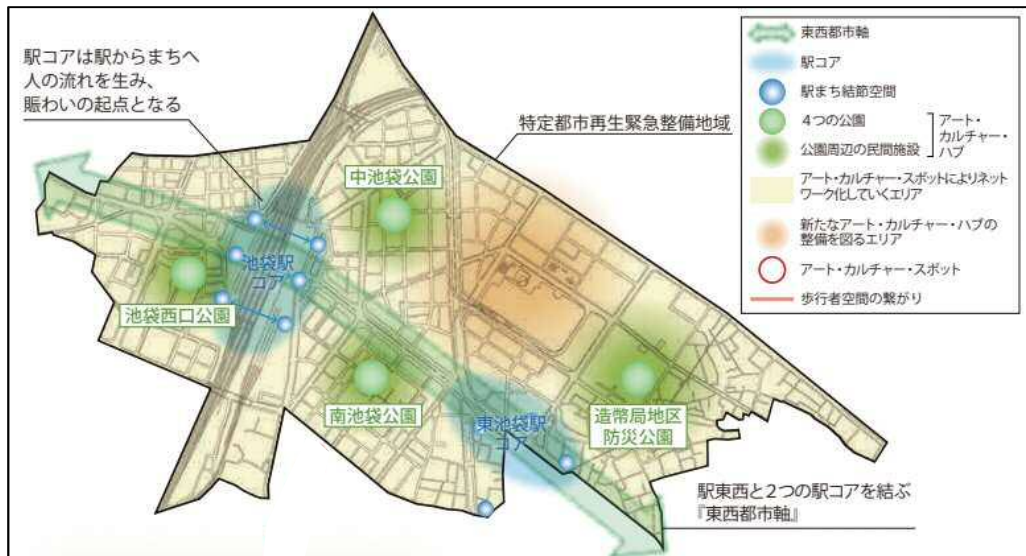
3. 「Phase 3」 実現に向けた 2022 年度（区制 90 周年）の取組みについて

ウォーカブルなまちづくりを進めるべく、まずは、区制 90 周年を迎える今年度は、以下の取組みを官民一体となって推進する。



4. 今後のまちづくりについて

今後策定される「(仮称)ウォーカブルなまちづくり基本方針」を踏まえつつ、まちづくりを推進します。まずは、東西に広がるダンベル型のまちづくりにおいても最重要と位置付ける、ダンベルの持ち手（繋ぎ）部分である「池袋駅」及び「駅周辺」を対象に、「池袋駅コア整備方針 2022（仮称）」を策定し、駅の再生に取り組んでまいります。



（「池袋駅周辺地域基盤整備方針 2018」より抜粋）